

賛否など態度決定に至った理由・討論

令和 8年 3月定例会	
議案番号 議案名	議案第69号 令和8年度松戸市一般会計予算
議員名・会派名等	原裕二、DELI、増田薫、工藤鈴子、竹内幸枝 政策実現フォーラム・社民
賛否態度	賛成
賛否など態度決定 に至った理由や 討論	<p>会派、政策実現フォーラム・社民は、可能な限り本会議、委員会など公の場で、実際に討論した内容をその議案に対する賛否態度に至った理由として掲載するようにしています。以下、行った討論内容です。</p> <p>議案第69号 令和8年度松戸市一般会計予算 賛成討論</p> <p>令和8年度予算討論 政策実現フォーラム・社民の原ゆうじです。 ただ今議題となっております、議案第 69号令和8年度松戸市一般会計予算については賛成。 議案第 76号、新松戸駅東側地区と第 77 号相模台地区の両土地区画整理事業特別会計予算は、反対の立場から会派を代表して討論します。はじめに一般会計予算について。 現在、本市が進める新焼却炉建設、市役所建て替え、新松戸の区画整理事業など、巨額の事業費が見込まれる大型事業を、前市長は、その費用見込みを明らかにしないまま、事業に伴う予算を計上し進めてきました。 我々の会派は、まずは費用見込みを明らかにすることを訴え続けてきましたが、残念ながら費用見込みが明らかになることはありませんでした。 そのうえでわが会派は、事業費見込みがわからないのであれば、事業自身は、良いものであっても、費用対効果はわからず、現実的に事業を進めるべきか否か、その予算の可否判断がそもそもできないとして昨年は予算に反対いたしました。 同時に、この判断の背景にある本市財政の危うさについても、以下のように近隣市と比較をしながら指摘をさせていただきました。 まず市の収入である市税収入は、令和7年度見込みが7%増の761億8300万円と過去最高を見込む本市に対し、柏市は8.8%増の765億5千万円見込と、人口で約6.4万人少ない柏市に抜かれる見込みとなってしまったこと。 借金である市債は、本市が91億円増え臨時財政対策債を除いた市債残高見込みが755億円。</p>

対して柏市は、52億円増加の576億円にとどまる見込みなこと。
市の貯金である財政調整基金は、7年度末残高が60.7億円まで減る見込みである本市に対し、柏市は期初49億円を取り崩しても尚、105億円の残高見込みであること。

このように柏市を引き合いに、本市税収は微増にとどまる一方、借金は増え、貯金は減る状況を指摘。

そうした財政状況下でも、市役所やごみ焼却炉といった老朽化した公共施設の更新、すなわち大型事業を行っていかなくてはならないこうした状況を直視し、まずは費用見込みを明らかにしたうえで、もっと危機感をもって市の運営を行うべきと厳しい指摘もさせていただきました。

しかし、昨年、6月新市長が誕生、こうした状況に変化が起こりません。

新市長は就任早々、各大型事業の費用見込みを明らかにするとともに、やはりこれまで明らかにされていなかった本市財政の厳しい現状を議会に説明されました。

そのうえで各大型事業をA、Bと二つに分け、そのうち約1253億円が見込まれる区分Bの実施時期を後ろ倒しし、その実施時期は9年度に明らかにするという考えを表明されました。

まさしく本市の厳しい財政状況を直視し、今後の対応に当たろうとするこのような市長の姿勢は、昨年のわが会派の指摘を実践するものと受け止め、大変に評価するものです。

そして実際、8年度予算では、市長が財政改革の第一歩と取り組む実質単年度収支黒字化3か年計画の初年度であり、そのための具体的な新たな取り組みとして、サンセット方式、インセンティブ予算制度の導入を行うとしています。

私はこうした市長の財政改革に向けた取り組みや考え方を念頭に今回の予算審議に臨み、以下、さらなるいくつかの提案を交えた指摘をさせていただきました。

歳出削減では、衛生費の夜間休日等救急医療対策事業、歯科診療業務について、現状、医師2人、歯科衛生士、受付事務各1人の4人体制で行う1日3時間の診療に対し、患者が1日平均2人にも満たず、費用対効果に大きな問題があること。その改善策を提案。

総務費の防犯カメラ増設予算については、以前に提案し、来年度から始まるスタンドアロン型防犯カメラへの早期切り替え、並びに県補助金もありかつ圧倒的安価なカメラ付き防犯灯の導入などを提案。

歳入増加の施策としては、さらなる企業誘致のため、近隣他市、特に流山市と同様な企業誘致補助金の上限撤廃を提案。こちらは、今回の予算にはありませんでしたが、来る北千葉道路延伸に伴うインターチェンジ市内設置に向け早期に実現し、企業誘致に決して出遅れる

ことの無いようにと。

又、本市への寄付が約1億3千万円に対し、市外への寄付が約20億円と大きく不均等となっているふるさと納税について、本市と同じように都市圏に属する柏市が年約7億円、船橋市が年約10億円の寄付収入があることを紹介、こうした近隣自治体の調査研究を徹底的に行うこと。特に両市が、本市とは違い経済部で行っていることから、組織的な見直しも含め行うこと。さらには、本市の立地特性から、スマホから簡単に寄付ができ、かつ、市内経済の活性化も期待できる現地決済制度の導入を提案させていただきました。

他にも、ネーミングライツに対する提案など、歳出削減、歳入増加のための提案をさせていただきましたが、答弁から、市は、おおむね趣旨を理解、今後検討していただけるとの感触を得ることができました。

こうしたやり取りからも市が財政改革に本気で取り組む姿勢を。そして何より、述べてきた大型事業の費用見込みを明らかにしたうえで、こうした取り組む姿勢に至った、この点を大いに評価、かつ8年度行う各事業の重要性など、総合的に勘案し、会派として本議案には賛成したいと思います。

しかし、1点、市長は直近3か年の計画をもって市の運営を行うようですが、ごみ焼却施設建設や庁舎建設、学校を含めた公共施設の再編など、大型事業の多くは、今から4年後以降に実際に支出が増えるものです。

ですので、早く中長期の財政見通しも出していただきたいと思えます。そしてともに考え、対応策を練りこの難局を乗り越えていきましょう！こちらも期待しております。